

創立 80 周年

弊社は、1943 年 7 月 22 日に、東京・日本橋で川崎試錐機製作所として誕生しました。昭和 18 年にあたるこの年は第 2 次世界大戦の最中であり、当時の国策であった地下資源開発に用いる試錐機（ボーリングマシン）を製作する会社として起業しました。そして今年（2023 年）、創立 80 周年を迎えます。表1は弊社の歴史を十数行に圧縮して示したものです。

表 1 川崎地質のあゆみ

時代	社会	川崎地質
1943	戦時下、国策として地下資源開発が活発化	川崎試錐機製作所 として創立
	地下資源調査所の石炭調査など	試錐機製作 ⇒ ボーリング調査 へ業態変更
1951	治山・治水事業、電源開発事業が活発化	川崎ボーリング（株）に社名変更
	高度経済成長期	物理探査部新設（1970）
1970	インフラ整備が活発化、高度化	川崎地質（株）に社名変更
1977	地質調査業登録規定の整備	第 1 号として認可。全国へ拠点拡大。
1995	阪神淡路大震災	災害対応を本格化
1997		株式を店頭登録（JASDAQ, 現スタンダード）
2011	東日本大震災	災害対応体制を強化
2012	笹子トンネル天井板崩落事故	メンテナンス分野を拡大
2014		ハノイ駐在員事務所開設
2020	2050 カーボンニュートラル宣言	再エネ事業（洋上風力発電）への本格参入
2023		創立 80 周年

創立から約 2 年後に終戦を迎え、国の主導による石炭調査に携わり、試錐機の製作からボーリング調査へと事業内容を変えていきます。世情の安定化に伴い治山・治水事業や電源開発事業が始まり、ボーリング調査の需要が増えていく中で、1951 年に社名を「川崎ボーリング」に変更しました。



社章

中央の「B」は、ボーリング（Boring）を、
中央の縦棒とその両側の半円は、川崎地質の「川」を表します。

我が国は 1970 年代前半にかけて高度経済成長期を迎え、インフラ整備に伴う地質調査の需要増大や高度化が求められ、1970 年に「物理探査部」を新設し、また同年に、社名を「川崎地質」に変更しました。そして 1977 年、「地質調査業登録規定」の第 1 号の認可を受けました。

その後は、全国に拠点を拡大していき、1997 年に株式を店頭登録しました。そして社会の要請に応じて、次のような事業に係り社会貢献を果たしてきました。

- ・ **災害対応**: 1995 年 1 月の阪神淡路大震災を契機に大規模災害への対応を本格化し、2011 年 3 月の東日本大震災の際もその復旧・復興に大きく貢献しました。
- ・ **メンテナンス事業**: 2012 年 12 月の笹子トンネル天井板崩落事故を契機に国内のインフラ老朽化とその維持管理がクローズアップされ、当社は物理探査の活用を含め対応を強化しま

した。

- ・ **再生可能エネルギー事業**: 従前より地熱発電事業等に係っていましたが、現関東支社に設置した海域プロジェクト室を母体にして2017年より洋上風力発電事業に参入し、2020年10月の「2050カーボンニュートラル宣言」を契機に、本社組織「再生可能エネルギープロジェクト室」への改組(2021年4月)、海洋の物理探査部門とボーリング部門を統合した「海洋・エネルギー事業部」への統合(2021年12月)により組織力を強化し、同事業への取り組みを本格化しました。

80年の歴史の中で、社会経済環境の変化に揉まれながらも、弊社はその時々々の社会のニーズに応える形で技術開発を進めてきました。こうした先人たちの努力に支えられ、陸上のみならず海洋の調査においても多くの技術やノウハウを集積し、陸域・海域を問わず自社内で地質調査や地盤の診断に対応できる企業(スローガン「アースドクター」)に発展してきました。



アースドクター

青ラインは「空」、緑ラインは「緑・大地」、中央の♥は「人」を意味し、この3つで「天・地・人」、すなわち地球上の万物を表わします。

全体の形は「人の目」を模しており、合わせて「医師による地球の診断」を表します。

80年の節目にあたり、その歴史を振り返って、弊社の社会貢献を整理・記録した社史を編纂いたします。社史を通して、自然環境と共生し安全・安心な社会づくりに貢献してきた取り組みを社員自らが再認識することが狙いです。そして自社への誇りと将来への希望を感受した社員が、そのスピリットや取り組み姿勢を後世へと引き継ぎ、90周年、100周年へと持続的に発展していくことを目指します。



80周年ロゴマーク

80周年の「0」は、地質調査で用いるルーペ(拡大鏡)をイメージ。その中に、都市、地下、地層を表現し、地球を診ることによってインフラ整備などに長く携わってきたことを表します。

2023年1月

代表取締役社長 栃本泰浩